

2015 年度事業報告

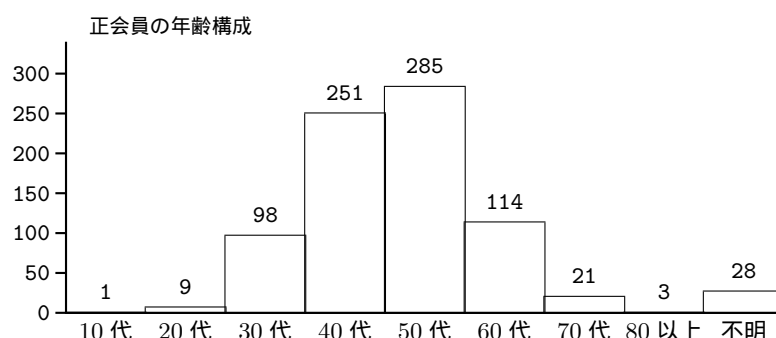
1. 会員

2016 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである。

正会員	810名	準会員	22名
名誉会員	3名	団体会員	7団体
学生会員	54名	賛助会員	3社

2015 年 3 月 31 日時点での正会員数は 837 名であり、そこから 27 名減少したことになる。

正会員の年齢構成を次のグラフに示す。50 才以上の正会員が 54%程度、40-49 才の正会員が 32%程度、30-39 才の正会員は 13%程度である。なお、20 代の正会員が少ないが、学生会員の多くは 20 代であろう。



2. 会議の開催

2.1 総会 (2015 年度)

日 時	2015 年 6 月 17 日 (水) 18:00 ~ 19:00
場 所	国立情報学研究所 12 階 1210 会議室
出席者	代表会員 35 名 (委任状を含む) (代表会員総数 38 名)
議 案	第 1 号議案 2014 年度事業報告の承認の件 第 2 号議案 2014 年度決算の承認の件 第 3 号議案 2015-2016 年度役員選任の件

議決の定数を超える 35 名 (委任状を含む) の出席があり、加藤和彦理事長を議長に、第 1 号議案、第 2 号議案を審議し、決算が適正であるとの 2014 年度監事の報告を受けて、満場一致でこれらを承認した。続いて第 3 号議案について審議し、役員候補者選挙で選出された役員候補者を役員として選任することも満場一致で議決した。

2.2 理事会・役員会

理事会は、第 22 回 (2015-05-28) から第 26 回 (2016-03-10) まで 5 回開催した。役員会は、第 28 回 (2015-05-28) から第 34 回 (2016-03-10) まで 7 回開催した。2015 年度の理事及び監事は次の通りである。

理事長	加藤和彦			
副理事長	丸山宏			
理 事	石崎一明	伊藤貴之	大山恵弘	河合栄治
	栗原聡	櫻井祐子	細部博史	増原英彦
	南出靖彦	八杉昌宏	脇田建	鷲崎弘宜

監 事 大須賀昭彦 中島震

2.3 評議員会

平成 27 年度(2015-09-9)評議員会を早稲田大学西早稲田キャンパスにて開催し、
学会運営について討議した。評議員会開催時における評議員は次の通りである。

牛島和夫	大沢英一	大堀淳	大蒔和仁	大和田勇人
筧捷彦	片山卓也	亀山幸義	佐々政孝	佐藤周行
佐藤雅彦	柴山悦哉	武市正人	田中英彦	田中譲
玉井哲雄	近山隆	土居範久	都倉信樹	所真理雄
中島震	中島秀之	中田育男	橋田浩一	平田圭二
深澤良彰	二木厚吉	二村良彦	古川康一	本位田真一
溝口文雄	森下真一	米崎直樹	米澤明憲	

3. 事業

3.1 機関誌編集

第 333 回(2015-05-11)から第 336 回(2016-02-12)まで、4 回の編集委員会を開催し、学会誌「コンピュータソフトウェア」第 32 巻 2~4 号および第 33 巻 1 号を発行した。これらは全て、サイバー増大号であり、冊子体とサイバーページ(電子出版)から構成した。また「女性研究者」(第 32 巻 2 号)、「ネットワーク技術」(第 32 巻 3 号)、「ソフトウェア工学」(第 32 巻 3 号)、「ソフトウェア論文」(第 32 巻 4 号)、「インタラクティブシステムとソフトウェア」(第 33 巻 1 号)の 5 回の特集を組んだ。

平成 28 年 3 月に田中二郎編集委員長が退任し、平成 28 年 4 月に新たに千葉滋編集委員長が就任した。

解説論文や解説記事の充実を図った。その結果、第 32 巻 2 号から第 33 巻 1 号までの合計で、解説論文 12 編、ソフトウェア紹介 3 編が掲載された。

2005 年度から開始した読者モニタ制度をアナウンスし、応募者の中から選定された 3 名のモニタから機関誌および各記事に関するさまざまなフィードバックを得た。

第 20 回研究論文賞として、以下の 2 件を選定した。

- ・ 対馬 かなえ, 浅井 健一:「重み付き型エラースライスの提案」, Vol. 31, No. 4 (2014)
- ・ 則武 治樹, 番原 睦則, 宋 剛秀, 田村 直之, 井上 克巳:「パッキング配列問題の制約モデリングと SAT 符号化」, Vol. 31, No. 1 (2014)

また、第 4 回ソフトウェア論文賞として、以下の 2 件を選定した。

- ・ 山田真大, 小林良岳, 本田晋也, 高田広章:「マルチコアにおけるコア隔離機構 Timer Shield による Linux のリアルタイム性向上」, Vol. 31, No. 4 (2014)
- ・ 杉本章義, 加藤和彦:「クラウド基盤ミドルウェア Kumoi のセキュリティ設計と実装」, Vol. 30, No. 4 (2013)

2015 年度の編集委員会の構成は次の通りである。

編集委員長	田中二郎				
編集副委員長	岩崎英哉	河内谷清久仁			
編集担当理事	増原英彦	細部博史			
編集委員	青木利晃	明石修	阿萬裕久	石井大輔	石川冬樹
	和泉順子	馬谷誠二	大場みち子	河合栄治	川端英之
	糸野文洋	栗原一貴	栗原聡	神田陽治	河野健二

河野恭之	小林隆志	小宮常康	佐藤進也	沢田篤史
首藤一幸	住井英二郎	高田眞吾	高橋伸	千葉滋
寺田努	戸辺義人	中野圭介	西崎真也	林晋平
松田一孝	松野裕	眞野健	美馬義亮	望月茂徳
門田暁人	結縁祥治	横山大作	鷲崎弘直	

3.2 企画委員会

合計 3 回の企画委員会を開催し、各種の企画にあたった。2015 年度は、学生や企業の技術者を中心に大会参加者を増加させ、インターネットを通じて学会活動を広くしらしめるための企画、および各研究会の交流を活発にするための企画に重点をおいた。具体的には、学会内外から魅力的なスピーカーを集めた講演会 FTD (Future Technology Design) を企画した。

2015 年度の企画委員は次の通りである。

企画委員長	脇田建			
企画担当理事	脇田建	伊藤貴之	吉岡 信和 (6 月の総会まで)	
	丸山 勝久 (6 月の総会まで)			
企画委員	青柳滋己	網代育大	荒堀喜貴	綾塚祐二
	大越匡 (1 月の役員会より)		栗原聡	來間啓伸
	中野圭介	波多野大督	福田茂紀	廣海緑里
	松野裕	横山大作	米澤拓郎 (1 月の役員会まで)	
	山内正人	吉岡信和		

3.3 大会

2015 年 9 月 8 日～11 日 (9 月 8 日は併設イベントのみ) に、早稲田大学 西早稲田キャンパスにおいて第 32 回大会を開催した。

FTD 2015, 招待講演, トップカンファレンス特別講演, 基礎研究賞特別講演, 特別セッションを企画した他、一般セッション, 研究会セッション, ソフトウェア論文セッション, デモ・ポスターセッションを設けた。基礎研究賞特別講演と特別セッションは今回の大会より新たに企画したものである。研究会セッション, ソフトウェア論文セッションは第 27 回大会で導入したものを継承しており, FTD (Future Technology Design) は第 30 回記念大会から企画したものである。第 29 回大会から大会本体の登壇発表者の条件を緩和したことから, 第 31 回大会に引き続き, 第 27 回以降の大会の併設企画であった「学生セッション」(ただし, 第 28 回大会にて「萌芽セッション」に名称変更し, 第 30 回記念大会では大会本体に含めた)を設置しなかったほか, デモ・ポスターセッションにおいて「予稿なし」のみとすることも継承した。学生奨励賞は第 27 回大会で導入したものを継承しつつ, 学生の講演者を対象とした。

併設イベントを含めた大会参加者は, 177 名 (正会員 87 名, 学生会員 9 名, 一般非会員 20 名, 学生非会員 52 名, 招待講演者 2 名, 基礎研究特別講演者 2 名, 特別セッションへの招待発表者 5 名) であった。発表件数は, 招待講演 2 件 (Nobuko Yoshida 氏, 菅野重樹氏), 基礎研究賞特別講演 2 件 (佐藤雅彦氏, 平山勝敏氏), トップカンファレンス特別講演 6 件, 一般セッション 24 件, 研究会セッション 34 件 (PPL: 20 件, rePiT: 7 件, FOSE: 5 件, MACC: 2 件), ソフトウェア論文セッション 3 件, 「ソフトウェアモジュラリティの追及」特別セッション 3 件 (うち招待発表 2 件), 「自然言語とプログラミング言語」特別セッション 3 件 (うち招待発表 3 件), デモ・ポスターセッ

ション 13 件であった。また、9 月 9 日に「FTD2015 (Future Technology Design)」を大会企画として開催した。また、9 月 8 日に大会併設イベントとして、チュートリアル「計算機科学者のためのゲーム理論入門」、PPL サマースクール 2015「プログラミング言語のゲーム意味論 線形近似の視点から」の 2 件を開催した。

講演論文集は無線 LAN を通じてオンラインで参加者に配布した。大会終了後、製本したものを講演論文集 (ISSN 0913-5391) として国立国会図書館に納本した。大会の詳細な内容は、学会誌記事「日本ソフトウェア科学会第 32 回大会報告」(丸山勝久著, Vol.33, No.1, pp. 3-10, 2016) で報告されている。

大会における優れた登壇発表に対して与えられる高橋奨励賞は、次の 1 件である。

- ・中澤巧爾 (名古屋大学):「Compositional Z: Confluence Proofs for Permutative Conversion」

学生奨励賞は、次の 4 件である。

- ・上里 友弥 (筑波大学):「更新可能時間オートマトンの新たな拡張について」
- ・福室嶺 (東京大学):「コールスタックに基づいてクラス拡張の有効範囲を制御するための言語機構の提案」
- ・川原征大 (神戸大学):「SAT ソルバーを用いた高速な部分グラフ探索ツールの実装と評価」
- ・横山瑞宜 (広島市立大学):「Improving Floating-Point Numbers ライブラリの高速化」

第 32 回大会の役員は次の通りである。本大会では第 31 回に引き続きプログラム副委員長、デモ・ポスター委員長を設けた。

大会委員長	上田和紀
運営委員長	鷲崎弘宜
プログラム委員長	丸山勝久
プログラム副委員長	小林隆志
デモ・ポスター委員長	日高宗一郎
広報委員長	吉田則裕

プログラム委員	阿萬裕久	五十嵐淳	石尾隆	伊藤貴之
	大山恵弘	紙名哲生	小林隆志	櫻井祐子
	杉山安洋	砂原秀樹	住井英二郎	中野圭介
	日高宗一郎	前田俊行	丸山勝久	八杉昌宏
	山内正人	結縁祥治	横山大作	吉岡信和
	吉田則裕	脇田建	鷲崎弘宜	
大会担当理事	櫻井祐子	鷲崎弘宜		

3.4 講習会

2015 年度は大会中のイベントとして、大会併設 PPL サマースクール、チュートリアル、特別講演会 FTD (Future Technology Design) を開催した。さらに 1 月にチュートリアルを開催した。

- (1) 「計算機科学者のためのゲーム理論入門」(2015-09-09)
- (2) 「oneM2M がつなげる IoT の世界」(2016-01-27)

3.5 研究会

2015 年度は、次の 8 研究会が活動した。各研究会の主な活動は下記の通りである。

- (1) 「プログラミング論」研究会 (主査：住井英二郎)
 - 第 13 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2015) の主催 (2015-9-8、大会併設)
 - 第 32 回大会 PPL セッションの実施 (2015-9-9~11、大会中)
 - FLOPS 2016 (The 13th International Symposium on Functional and Logic Programming) の主催 (2016-3-4~6)
 - 第 18 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2016) 主催 (2016-3-7~9)
- (2) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査：櫻井祐子)
 - 第 32 回大会 MACC セッション開催 (2015-9-10、大会中)
 - 合同ワークショップ & シンポジウム JAWS2015 共催 (2015-9-30~10-2)
 - 基盤 S「持続可能な発展のための資源配分メカニズム設計理論の構築」と MACC 合同研究会 (2016-3-27~28)
 - クラウドソーシング研究会への協賛
- (3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査：塚本昌彦)
 - ワークショップ WISS2015 主催 (2015-12-2~4)
 - 情報処理学会インタラクシオン 2016 に協賛
 - エンタテインメントコンピューティング 2015 に協賛
- (4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査：杉山安洋)
 - ワークショップ FOSE2015 主催 (2015-11-28~30)
 - 大会研究会セッション開催 (2015-09-11)
 - コンピュータソフトウェア誌「ソフトウェア工学の基礎」特集号
- (5) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査：藤本衡)
 - ワークショップ WIT2015 主催 (2015-06-25~26)
 - コンファレンス IC2015 共催 (2015-10-13~14)
- (6) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査：前田俊行)
 - ワークショップ DSW2015 開催 (2015-12-16~17)
- (7) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査：中島秀之)
 - JWEIN-Summer ワークショップ開催 (2015-8-19~21)
 - JWEIN-DOCMAS 合同合宿 (2015-12-01~03)
 - 国際ワークショップ DOCMAS-WEIN2015 at WI/IAT2015 開催 (2015-12-06)
- (8) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査：砂原秀樹)
 - 大会研究会セッション開催 (2015-09-08~10)
 - 第 2 回実践的 IT 教育研究シンポジウム主催 (2016-02-15)

3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった。

共催：0 件 協賛：11 件 後援：2 件

3.7 広報関係

本学会の Web ページ (<http://www.jsst.or.jp/>) および会員メーリングリスト (jsst_members@jsst.or.jp) を通じて、会員への情報提供を行った。新たな情報提供として、コンピューターソフトウェアのサイバーページ掲載論文・サイバー増大の冊子体部分のオンライン公開のお知らせを、会員メーリングリストを通じて開始した。Twitter のアカウント (JSSST_Info) を通じた広報活動も継続している。

3.8 基礎研究賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた研究者に対して、基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた。8 年目にあたる 2015 年度は、以下の 2 名を選定した。

- ・ 胡振江 氏 (国立情報学研究所 教授)

授賞理由： 双方向変換とは、ソースデータをターゲットデータに変換した後、ターゲットデータ上の更新をソースデータに反映させることが可能な計算の枠組である。胡氏は、複製という構造を双方向変換言語に導入し、一貫性を保証する双方向変換を構造的に構築するための理論的枠組を与えることで、これまで扱えなかった制約を持つデータが双方向変換の対象となり、双方向変換言語の適用範囲を大きく広げることとなった。この研究に代表されるように、双方向変換の研究で主導的な役割を果たしており、国際的にも高く評価されている。

- ・ 河野健二 氏 (慶應義塾大学 教授)

授賞理由： 河野健二氏は、オペレーティングシステムおよびシステムソフトウェア研究における幅広い分野において多くの優れた功績を上げている。Remote Procedure Call/Remote Method Invocation (RPC/RMI: 異なるプロセス間・マシン間での手続き・メソッド呼出) に関する研究においては、データ送受信時に必要となるデータ変換 (シリアライズ) のオーバーヘッドを動的スペシャライゼーション (プログラムの実行時にコードを修正し最適化すること) の手法を用いて大幅に削減することを可能にするなど優れた成果を上げた。またネットワークからダウンロードしたプログラムの安全性をオペレーティングシステムレベルで保証する手法の研究においては、安全性を確保しつつ性能も犠牲にしない方法として、細粒度保護ドメインと呼ばれる手法を提案するなど先進的で優れた成果を上げた。更には、仮想マシンモニタ技術 (実際の計算機上にソフトウェアで仮想的な計算機を再現する技術) の分野の研究においては、仮想マシンモニタを用いてシステムのセキュリティ・信頼性・ディペンダビリティ等を向上する種々の手法や、システムの資源管理ポリシーを制御する手法など非常に多岐にわたる成果を上げている。

2015 年度の基礎研究賞選定委員会の構成は次の通りであった。

加藤和彦 (理事長)

田中二郎 (編集委員長)

大沢英一 小林直樹 廣津登志夫 二木厚吉 丸山宏

4. 選挙

2016 年度定時社員総会で任期満了となる役員に対する選挙は、2015 年 11 月 13 日に公示され、2016 年 1 月 8 日まで候補の推薦を受け付けた。その結果、役員選挙候補者 (理事) として 7 名、役員選挙候補者 (監事) として 1 名の立候補があった。全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され、正会員による投票に付された。投票は、2016 年 3 月 1 日から 2016 年 3 月 15 日までの期間に行われた。しかし、本投票に

において役員選挙候補者（理事）1名が、誤って投票システムに掲載されていなかったことが判明したため、当該候補者の投票は2016年5月27日から2016年6月10日までの期間に行われた。同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた。これらの計2回の投票の結果は次の通りであった。

役員候補者（理事）選挙 選出

河合栄治 櫻井祐子 八杉昌宏

石川冬樹 光来健一 高田真吾 高橋伸

役員候補者（監事）選挙 選出

中島震

役員候補者選考委員 信任

上田和紀 大堀淳 柴山悦哉 寺岡文男 本位田真一

役員選挙候補者（理事・監事）全員がそれぞれ、社員総会における役員選任の対象候補者として選出され、また、役員候補者選考委員全員が信任を受けた。

なお、この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りである。

選挙管理委員会

河野健二 佐藤周行 吉田健一